

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本文化史概論(5013)		
科目基礎情報								
科目番号	0027			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース			対象学年	専2			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	教員配布資料							
担当教員	中村 泰朗							
到達目標								
・ 絵画・工芸・建築といった文化財学的観点から、日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解する。 ・ 日本文化について、時代ごとの違いを理解できるようになる。 ・ 自身が調べた内容・情報を、相手に論理的かつ分かりやすく伝える能力を身に付ける。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解し説明できる。			日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できる。		日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できない。		
評価項目2	日本文化について、時代ごとの違いを理解し説明できる。			日本文化について、時代ごとの違いを理解できる。		日本文化について、時代ごとの違いを理解できない。		
評価項目3	自身が調べた内容・情報を、相手に論理的かつ分かりやすく伝えることができる。			自身が調べた内容・情報を、相手に論理的に伝えることができる。		自身が調べた内容・情報を、相手に論理的に伝えることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 DP1 地球環境と科学技術の重要性								
教育方法等								
概要	・ 文献、絵画、建築など様々な史料を多角的に検討することで、日本と世界の文化を正しく理解する。 ・ モノづくりの歴史を学ぶことで、文化史と技術史を学際的に理解する。 ・ 自分自身が調べた内容・情報を、相手に論理的かつ分かりやすく伝える能力を養う。							
授業の進め方・方法	・ 配布プリントおよびスライドを中心とした講義形式を採る。 ・ 学生によるスライドを用いた発表を行う（各自一回ずつ）。 ・ 総合評価は発表点（30%）、質疑応答点（20%）、最終レポート（50%）の割合で行う。 ・ 総合評価を100点満点とし、60点以上を合格とする。							
注意点	・ 日本および世界の歴史や文化について、日ごろから関心を持つようにすること。 ・ 近隣の博物館や歴史的名所を訪れることによって、授業内容の復習と確認を行うこと。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		今日における日本と世界の文化の多様性について、基本的な情報を整理する。			
		2週	日本文化の概説		日本の文化史について、基本的な知識を身に付ける。			
		3週	学生発表（古代編①）		古代における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		4週	学生発表（古代編②）		古代における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		5週	学生発表（古代編③）		古代における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		6週	学生発表（古代編④）		古代における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		7週	まとめ（古代編）		古代における日本文化について、基本的な情報を整理するとともに、正確な知識を身に付ける。			
		8週	学生発表（中世編①）		中世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
	4thQ	9週	学生発表（中世編②）		中世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		10週	学生発表（中世編③）		中世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		11週	まとめ（中世編）		中世における日本文化について、基本的な情報を整理するとともに、正確な知識を身に付ける。			
		12週	学生発表（近世編①）		近世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		13週	学生発表（近世編②）		近世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		14週	学生発表（近世編③）		近世における日本の文化について、調べたことを論理的かつ分かりやすく相手に伝えることができる。			
		15週	まとめ（近世編）		近世における日本文化について、基本的な情報を整理するとともに、正確な知識を身に付ける。			
		16週	全体の総括					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。			4	

	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それ ぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握 している。	4	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任 を説明できる。	4	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与 した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	4	
		グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる 寛容さが必要であることを認識している。	4	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	
評価割合						
		発表	質疑応答	レポート	合計	
総合評価割合		30	20	50	100	
基礎的能力		30	20	50	100	